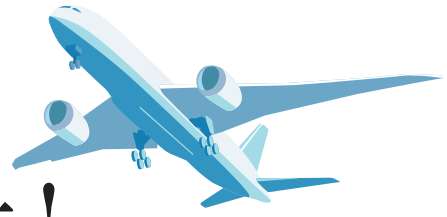




2018年3月「国・県・空港周辺9市町・NAA」で合意

成田国際空港の面積が 1200haから**2300ha**へ拡大！



宇都宮 高明

成田国際空港「第3滑走路」供用開始時に、 鉄道 **単線区間**の複線化実現を！

仙台駅⇄東京駅は約**350km**わずか**90分**！（東北新幹線）
それに比べ、成田空港駅⇄東京駅は約**70km**を**60分**！

日本最大の国際空港成田と都心を結ぶ鉄道アクセスの弱さが、成田空港の価値が上がらない要因のひとつです。

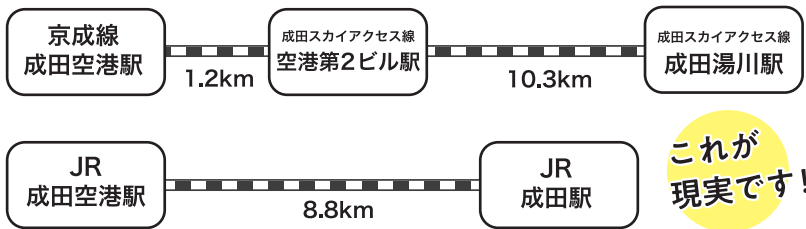
構想としては、成田―新東京―羽田を1時間弱で結ぶ「都心直結線」構想もありますが、

残念ながら東京都の姿勢等で絵に描いた餅です。

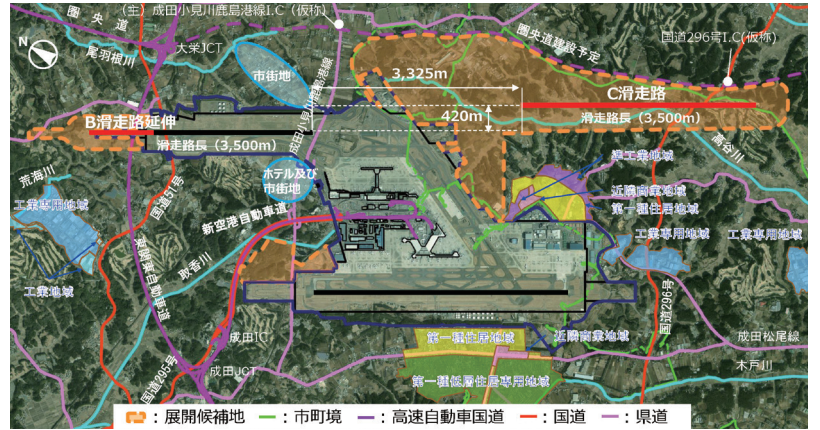
私は、今回の成田空港機能強化の提案が国から地元を示された時に、鉄道の単線区間の複線化を地元了解の条件に、と提案させて頂きましたが実現しませんでした。

※1 2029年3月末予定

単線区間の内容は、



滑走路の具体的な位置及び空港敷地範囲



資料：Narita International Airport Corporation

航空旅客数7500万人と予測している2300haの成田空港と都心を結ぶアクセスとして、定時制と大量輸送の要である鉄道アクセスの改善はやらねばならない政策のひとつです。

成田空港開港時には、都心と20分で結ぶ新幹線構想も考えられていました。仮に20分、

30分で結ばれていたならば、今のような羽田はあったでしょうか。成田空港開港以来単線区間のままできている現状は、今後不安を感じています。

そこで、今度こそ国の責任において単線区間の複線化を、第3滑走路供用開始時に実現するよう行動を起こす時です。

成田市も主体的に次の 国際感染症に備える体制づくりを！

2023年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行され、成田空港をはじめ市民生活もコロナ以前の賑わいがかえってきています。

厚労省は新型コロナ騒動を受けて、感染症法を改正しました。その中のひとつに、都道府県と保健所設置市区を必須の参加者としての「連携協議会」の創設がうたわれています。

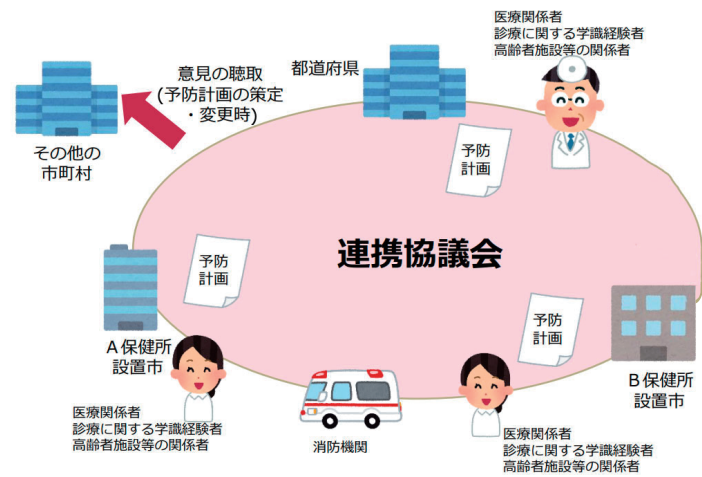
この協議会は、入院調整の方法、医療人材の確保、保健所体制、検査体制方針、情報共有のあり方などについて、平時から議論・協議し、都道府県が定める予防計画をまとめる場であり

成田市は保健所設置市ではな

いので千葉県からは声はかかっていませんが、日本最大の国際空港を有する市であり、新型コロナウイルス騒動時の成田赤十字病院、国際医療福祉大学付属病院の県全体に対する献身的なご貢献や新型コロナウイルス宿泊施設関係への成田ホテル群の活動は大きなものでありました。

そこで私は、成田医師団をはじめ病院関係の方々、宿泊施設関係の方々や改正感染症法で強化された空港検疫所、保健所の方々にもご参加頂き、成田市においても「次の国際感染症に備える」協議会等の新設を提案しています。これらを携えて連携協議会にも参加すべきであると、あわせて提案しました。

連携協議会の運営イメージ



資料：厚生労働省 改正感染症法について（令和5年4月1日施行分）より

（連携協議会は知事の要請で、必須メンバー以外も参加できるようになっている。）

市からの回答は、「現在、国及び県が進めている体制の見直しや新たな取組が検討されており、今後の動向を注視してまいります。」とどまっています。

また、今年は成田市政施行70周年の年です。そこで、70周年記念事業として「国際感染症への次への備えと、国際空港を有する都市（韓国仁川市、台湾桃園市）の感染症対策」等の国際会議の検討を提案しています。

成田ニュータウン再生 定住人口増加こそまちの力！

成田市立地適正化計画2023においても、成田空港の更なる機能強化等に伴い、就業の場だけではなく居住の場としても選ばれるまちづくりを進めていく、とその方向性は明確です。

そこで私は、成田ニュータウンを居住の場としての再生のために、ニュータウン内に多くの団地を保有している千葉県、UR都市機構にご指導を頂きました。

千葉県からは「県下に多くある県営住宅の中で、成田市の県営住宅を優先的にとの計画はありませんが、成田市から具体的な話があればしっかりと対応します」とのお話を頂きました。

UR都市機構からは「成田ニュータウンは昭和40年代建設なので、まずは30年代建設が先ですが、橋賀台団地の再生

等については考えてみたい」とのことでした。

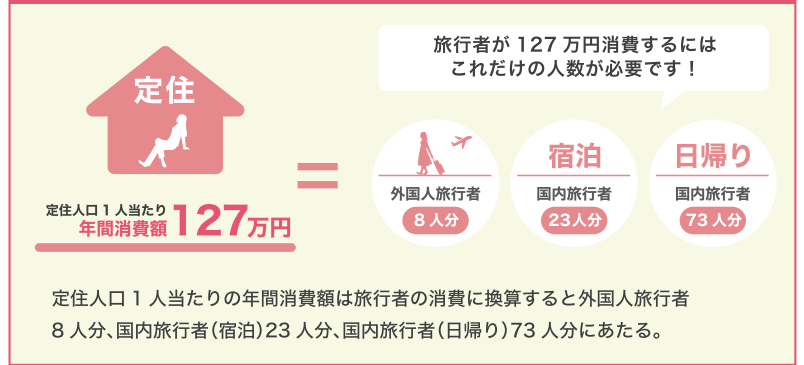
そこで、「成田ニュータウン再生共同事業体」を再度提案しています。

この事業体には、成田市、千葉県、UR都市機構、住宅供給公社、住宅金融支援機構が連携して、高経年団地において深刻な超高齢化、地域活動の担い手不足に対応するため、建て替え計画の策定や建て替えによらない再生への事業を進めてもらいたいと思います。

旧ボンベルタが、「そよら成田ニュータウン」へ。期待しています

民間企業の方々が進むゆとりあるまちですが、50年を経た今日まち全体が古くなっているのが現実です。ニュータウンの

住む人を増やす事が重要です！



資料：観光交流人口増大の経済効果（2018年）国土交通省資料より



「そよら成田ニュータウン」ホームページより <https://www.aeon.jp/sc/soyora-naritanewtown/>

核であったボンベルタが閉店し「そよら成田ニュータウン」が

夏には開店の予定です。共に創り上げたいと思っています。

成田山開基1100年(西暦2038年)を見据えてのまちづくり まずは駅前、表参道の公共トイレ整備から！

最近、公共トイレをまちづくりの一環として整備し観光資源として事業を進めている自治体が出てきています。

2023年のカンヌ映画祭で男優賞を受賞された役所広司さんの役は、渋谷の公共トイレの清掃員です。この映画のヴェンダース監督は「平和と高貴さを持ち合わせたさやかな領域」と日本の公共トイレを評しました。日本人として賞の受賞と同じくらい誇らしかった、と日経新聞に掲載されていました。

ここ描かれた渋谷のトイレは有名ですが、豊島区では「女性にやさしくまちづくり」を進めるなかで、区内133カ所ある公共トイレのうち85カ所を改修

し、このうち25カ所は「アートトイレ」として集中的に刷新した、とのことでした。

公共トイレの整備は、成田市・日本のイメージアップに大きく貢献

成田市にとどまらず日本のイメージアップに大きく貢献するであろう公共トイレですが、私は東京オリンピック・パラリンピック以前に、日本の空の表玄関を自負する成田市の駅前や表参道に、「ドレッシングルーム等を備えた公共トイレの整備」を提案いたしましたが、実現にはいたりませんでした。

そこで、成田山開基1090年

(西暦2028年)、1100年(西暦2038年)に向けて駅前、表参道の景観形成の視点から、建築家やデザイナーの方々へ公共トイレ整備のための「公募」を提案しています。

しかし、成田市からは「新たにドレッシングルームなどを備

えた公衆トイレを整備することは、スペースや費用面の課題もあり、今後、既存の公衆トイレや観光施設等の改修に併せて検討してまいりたいと考えております。」との回答をいただくにとどまりました。

生まれ変わった渋谷区のトイレ トイレは日本が世界に誇る「おもてなし」文化の象徴。



西参道公衆トイレ



はるのおがわコミュニティパーク

日本財団「THE TOKYO TOILET」ホームページより <https://tokyotoilet.jp/>

略歴

- 昭和21年12月生 愛媛県西予市明浜町出身 ○中央大学卒業後、新東京国際空港公団へ入社
- 日本・メキシコ政府交換留学生として約1年間メキシコに留学
- 新東京国際空港公団労働組合委員長 ○日本青年会議所千葉ブロック会員大会委員長
- 成田市議会議員(第30代・第36代) ○千葉県市議会議員会会長 ○関東市議会議員会副会長

活動

- 成田市議会議員(10期) ○市議会空港対策特別委員会委員長 ○千葉県地方議員連絡協議会会長
- 自治体学会議員研究ネットワーク幹事 ○花と緑の農芸財団理事 ○成田ニュータウン自治会連合会副会長
- 成田ニュータウンスポーツ連盟事務局長 ○中央大学成田白門会会長
- 成田コスモポリタンロータリークラブ会員 ○構想日本会員